



人造絹糸の話

長野県下伊那郡龍丘村三番地
編輯長 原 登
印刷所 龍丘青年會
代表者 前島秀夫
印刷所 龍丘青年會

木から絹が作られる、其の絹が我々の生活を脅かして居る...

中に壓出して凝固させる工業的製造に成功しました。當時絹は外観が優美であり肌ざわりはよし大變に人の心を引いて居ました...

その他にも二三の法がありまが、餘り行はれてゐない故は、力をかけて繊維素に作用せしめて造るのです...

以上は大體の方法ですが、實際に人絹會社では他と競争の爲に秘密の法があるが外部には絶対に解らないさうです...

一つ例ですが、或る師範の先生が生徒を引率して親友の勤めてゐる會社の見学にいつた所が工場は絶対に見せないと言つてゐるさうです...

天然絹糸は其の粒子が全部ぶ列してゐるが、人絹に於ては不規則な排列をしてゐる言ひます...

即ち限外顕微鏡の力を借りて検査するのですが、天然絹糸は中心に至るまで粒子の排列が整然としてゐるのみでなく中心に特別に強い組織が貫き其の外側を柔い組織が包んでゐる爲に強力であり弾性があり着物にしても皺が出来ないのださうです...

人絹は細孔より壓出するので繊維の表面は摩擦により表面は滑であり粒子の排列が比較的に整つて居ますか中心層は整つて居ません。粒子の結合が出来て居ませんこの性質が原因して人絹の缺點をなす所が多いのです。即ち弾性がありませぬ故に皺になります。又表面が水に濡れれば直ちに内部まで侵入し人絹が水に對して弱い言ふことになるので、向人工である爲粒子の排列も一樣には出来ず同じ糸も強い所もあり、弱いもある、染る所があり染り難い所が出来る理です。尚羊毛は非常に濃ですがそれは羊毛の中が空で筒筒状になつてゐる爲です。人絹では中空の事はほとんど不可能にされて居ます、随つて保温性なく衣服に適さないのです。甚だまごまりがありませぬが天然絹糸には人絹等の及びも付かない長所があるわけですから、大きな一つ。

養蠶農家の慘状と農業經營の轉換期?

昭和九年春夏秋の養蠶は全期を通じて恐らく漸次一縷の希望を託して飼育した蠶がかく慘状を呈した事を誰が豫想したであらう。養蠶のう業の特殊性としての投機性が何時も業者の頭を支配してゐるから今に値が出るこゝらが底値だと思ふは將來の上臆を夢みてゐた。然し乍ら本年に於ては其の期待は全く裏切られて疲弊の底底にある、一圓五十銭の中には種代も拂はねばならぬ、肥料代、税金、小作代も考ねばならぬ、一日の米代も心配しなくてはならぬ。こゝゆう状態では現在或は將來如何ともならぬ。そしてこの村は悲しくも將棋の運命を辿らなくてはならぬ様になつた。その歸結として色々の重大な社會問題が生れて来る。かく思ふ時のう家の士氣は消沈の極に達するであらう。此の絶望の中は何を思ひ何を考へ、然して重大の秋に處して勇憤しなければならぬであらう。正しくこの民の試金石の時であらねばならぬ。糸繭の暴落が生活に脅威を與へ現在への生活の機構への變革を余儀なくしめるのではなからうか? 換言すればこの業經營の轉換を組織への改革を考へせしむるのではなからうか。空々たる事はほとんど不可能にされて居ます、随つて保温性なく衣服に適さないのです。甚だまごまりがありませぬが天然絹糸には人絹等の及びも付かない長所があるわけですから、大きな一つ。

秋の深まりは一葉毎に病葉を化して地上に散らす、みのりの時であり凋落の秋である。不景氣不景氣の風が一層身に沁みて、此の秋の行く先は一体何處へ。

米を作つて米が手許から一年間の勞苦を他所に飛び去る秋、正にみのりの凋落の秋。不況對策、何々對策、何時迄たつても對策委員會より一も進まぬ政府の對策。

机上の空論、對策に夜が明け日暮れ秋が暮れる。のう民の福利といふ題目で作り上げた米穀法の爲、米價のうなぎ上り、拂下した米は思質、金銀の爲手が出ず。

何が何んだが政策、對策正に困窮に致る、米があつて米がない、のう村珍風景。託兒所に可愛い、子供が秋の陽を満喫する、にこりなき歌聲、地上天國はこれのう村近頃風景の喜ぶべきも増へるもの、借金ばかりのう家の慘状が、恐しい問題を殘して行くのだ。

模範的のう家の一様に把握せるはのう道徳、のう魂、のう魂を養ふ所は、こゝでは一体さうだ、先づそこに着目いづれもが研究百歩を進めねばならぬ。

澄んだ秋空の様に、鮮やかに不況對策の徹底的實行に、はしから取らう。

時報増頁に就いて

本號は養蠶多忙期でもあり、種々の都合上半頁の小さいのを發行する豫定でありました。が、下平不夫氏の篤い家觀察の原稿や、其他非常に重要な記事が豊富でありました。爲、四頁の普通版を發行し決定編輯致しました。村のう會から、小麦栽培法に就いて季節向の時報としての重要な原稿を出して頂けた爲、時期の都合です。編輯も済み印刷にも附されつ、ありましたので、普通版に入り兼ねた爲特に増頁する事に致しました。今秋も相當多く桑園が田になる様で、いづれも麥をまきつける向です。其他例年通りの水田も、裏作の麥作時期さなりま。

臨時特輯の小麦栽培法御覽の上萬善の小麦栽培を切望します。尚小麦飯に就いては、一層不況時に適切な方法故一人も多く實行されん事をお願致します。

増刊に就いて一言

編輯部

各青年會後半活動期来る、サテ緊要一番やらすばなりませぬ、波の荒い時局に戸を閉めた青年會である勿れ。

各青年會後半活動期来る、サテ緊要一番やらすばなりませぬ、波の荒い時局に戸を閉めた青年會である勿れ。

各青年會後半活動期来る、サテ緊要一番やらすばなりませぬ、波の荒い時局に戸を閉めた青年會である勿れ。

篤農家視察の旅

下平不二夫

本稿は去る八月廿一日夜木下紫水氏宅に於いて有志多數會合し下平不二夫氏の視察談を中心に研究座談會が開催された、豊富な視察談を聞き種々眞剣な研究が行はれ意義深かりし爲に是が廣く發表すべく本號より掲載する事にした熟讀研究あらん事を。

暑中休暇を利用して岐阜縣、愛知縣下に於ける模範篤農家視察の旅に出ました。養蠶に行詰れる現在を如何に切實に「てゆくか」云ふ問題は實に重大な問題であり、お互が本氣に考へねばならぬ時であります。

農村子弟教育の任に當る私達も何んぞかしてゆくべき道を見出し度いと思ひつゝ、精進の苦心談に耳を傾けるのも有意義な事と思ひつき旅に出た次第であります。縣農會推薦の七農家訪問に七日の視察ではあまりに短かい氣がしました。經營の實際を知るには少くも一週間は一家に入つて労働を共にせねばわからないと思ひました。

この短時日に知り得た老農の言葉經營の要を御參考まで書いて見やうと思ひます。勿論篤農家の實際は理想的で眞似の出来ない所があります。老農の努力工夫の結果から學ぶべき點があるならば研究工夫して見たいと思ふ次第です。

一、岐阜縣土岐郡瑞浪町 宇守河戸 橋本教示氏(廿八歳) (七月廿八日午後三時訪問) ▲經營狀況(昭和八年) 一、家族六人

從業者 年 齡 勞働時間 父 五九 一六〇時間 母 五六 一五四時間 經營主 三五 三〇九時間 妻 三〇 三五二時間 非從業者(長女 九歳 次女 七歳) 一、收 入

養蠶 一五九、〇〇〇 養鶏 六〇七、〇〇〇 蔬菜 三三〇、〇〇〇 養牛 二〇二、〇〇〇 養豚 四一〇、〇〇〇 養兔 二九三、〇〇〇 綿羊 五、六 三七、七三三 稻作 八〇〇、〇〇〇 麥作 一六〇、〇〇〇 柿 一、〇〇〇 計 六五二、〇〇〇

差引 農業所得 四七五、〇〇〇 農業外收入 五三五、〇〇〇 家計費 一三六、〇〇〇 差引現金残高 一六〇、〇〇〇 一、耕地面積 一町六反 一、經營組織 一、養蠶桑園 七反五畝 一、養蠶桑園 六五〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

- 1、和牛四頭(育成、生育、肥育) 處を御覽下さい。 2、豚五頭(自家用採肉ノ爲) 3、鶏五頭(自家用採肉ノ爲) 4、綿羊五頭(採肉ト仔羊生産) 5、養蠶二萬羽(若雄育成販賣) 卵價肉價ノ相場ニヨツテ 卵價ヲ飼養シタリ肉價ニシタリス。

▲養蠶について 鶏糞を取る目的にて飼育してあるが、飼料が高くて卵の安い場合に雄の飼育を行つた事があつたが大變良かった。孵化場にて雛の賣れの良い時は鶏のあわなない年である、生産過多にて市場の賣價が低價する故に孵化場の賣れ行きの悪い時に初めればきつゝあたる、又販賣の時を見てやるべきで誰でも出来る時には駄目だ、現在は二千羽飼育し鶏舎の半分にて養蠶を行ふことにしてゐる話されました。

▲養牛について 現在四頭の牛を飼育してゐるが肥料を取り肉を賣るを目的として飼育してゐます、牛の飼養は飼料の安値なるものが食はせ得るこゝから農家は是非試みていたゞきたい話されました。桑園に對する割合は二反歩に一頭位でよく、堆肥運搬の努力から考へるこゝ、豚の堆肥は努力を多く要するか牛の堆肥は軽便から運搬に都合がよく努力の節約が出来ることです、養蠶の生産費を低減から蠶糞を家畜の飼料に利用しやうと研究した結果、乾燥した蠶糞一貫匁三六麥一貫匁の養分がほぼ同じであるこゝを發見し蠶糞を家畜に食はせるこゝを考へました。

▲養蠶の埋草によるこゝで、コンクリートで穴を作り其の中へ蠶糞を埋して一貫匁に食鹽三十匁の割合に混ぜて、うんち固くつめ上に重石を澤山置いて腐熟しないやうにするののです。

▲養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。

▲養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。

▲養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。養蠶の將來について話されました。

養蠶 一五九、〇〇〇 養鶏 六〇七、〇〇〇 蔬菜 三三〇、〇〇〇 養牛 二〇二、〇〇〇 養豚 四一〇、〇〇〇 養兔 二九三、〇〇〇 綿羊 五、六 三七、七三三 稻作 八〇〇、〇〇〇 麥作 一六〇、〇〇〇 柿 一、〇〇〇 計 六五二、〇〇〇

差引 農業所得 四七五、〇〇〇 農業外收入 五三五、〇〇〇 家計費 一三六、〇〇〇 差引現金残高 一六〇、〇〇〇 一、耕地面積 一町六反 一、經營組織 一、養蠶桑園 七反五畝 一、養蠶桑園 六五〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反 一、養蠶桑園 三二七畝八〇〇反

秋期農繁期託児所

駄科、時又兩所共

毎日七十餘名の盛況

本村方面委員助成會の一事業として、今春六月新に開設せられた農繁期託児所は、第二回を去る九月十日から十日間駄科は公會堂に時又は長石寺に開始した。主任木下紫水、岩堀秀道兩氏及下平諦普下平英俊時又婦人會同女子青年會員諸氏の熱心な努力によつて兩所共出席児童毎日七十餘名の盛況に各家庭より多大の感謝を受け、十九日無事終了した。駄科部の児童男女別三年齡別及保育時間表は次の如くである。

▲男三十二人、女四十一人、計七十三人、年別四歳十人、五歳十六人、六歳二十九人、七歳十八人、計七十三人

▲保育時間表—午前八時始—
 神社參拜(社前整列)—入室朝禮—點呼—お話(おこぎ繪噺)—自由遊戯。九時半菓子給與—十時念誦寺御佛禮拜—唱歌遊戯の練習(寺にオルガン及蓄音機あり)—十一時半晝食に歸宅。期間中時々晝食を共にす。

午後一時始—お話及お伽人形踊—自由遊戯—三時半菓子給與—遠足運動(鈴岡公園電丘學校駄科驛藥師堂新井原發電所毛賀の森等)雨天の日は室内遊戯—唱歌練習—お話等—五時半晝の挨拶—いろ—の注意—歸宅。

山明莊談話會

團子の様にまるく、さ何等の蟬りなくお互に胸襟を開いて語り合ふ山明莊談話會は第二回を去る八月二十一日午後八時から開會した。出席者壯青年二十五名莊主紫水氏の挨拶

は据付以來漸次活用率の増加を示してゐるが今後小麥栽培に小麥粉需要の増加につれて各方面からの一層の利用を希望するに、尙製粉能力は十時間小麥一石八斗乃至二石を製粉し、然も従来の水車その他の製粉より粉の出来上りが遙に上質で、量が非常に多く出来る由、機械は三六〇圓にて据付けに三分の一の補助が出たもの。

夏繭 受入高は一七七〇貫にて近く口挽にかゝる由貫にて近く口挽にかゝる由

拂下米 組合扱分は申込俵數二七二俵にて目下精白米の米のま、この二種にて取扱つてゐるが、代金九圓七七錢にて精米にしたものは、摺賃として八錢高の由。

秋蠶 假渡金は天龍社各組合長會議にて一圓五十錢決定本組合も全様の筈。

海上勤務の生活から

丘の皆々様

軍艦赤城信號員下平武一君から此の頃村へ手紙が送れた。全君の最近の精勵振や艦隊の活躍が全文に充ちてゐる。遙かの海上から郷里丘の皆々様へよろしくの君の言葉を誌上からお傳ひ申します。

拜啓 いつも、御無沙汰にのみ打過ぎまして誠に申譯ありません。

本日は御手厚い慰問の品々御送り下さいまして有難く受取ました。度重なる皆様の御心盡し厚く、御禮申上ります。

私儀其後も御蔭様に無事に諸種の訓練に服して居ますから他事乍ら御放心下さい、左に私共の勤めする聯合艦隊の行動あらましを報導致します。去る六月十三日第二期行動開始の爲、集合地、寺島水道へ向け母港横須賀を未次第一艦

そして來 二十六日には乗員の休養燃料、糧食、浴水等の補給を終へて再び後半期の訓練の爲出港する事になつて居ます。

以後の豫定を申上ります。横須賀を出港する聯合艦隊は、二艦隊別々に十月初旬にわたり北海道、裏日本沿岸朝鮮及支那各地の豫定航路を移動戦技を行ひつゝ、巡航、十月中旬佐世保軍港に於て合同以後大演習、終つて大阪に於て大演習部隊の觀兵式が行はれる事になつて居ます。

一方大演習に於て青軍(聯合艦隊)に對抗する赤軍(臨時編成の第四艦隊)にて、各軍港豫備カン隊及警備隊より成る艦隊は去る七月二十日百武中將統率の基に編成されて目下九州沿岸に猛訓練中であり、次に本行動中航空事故の一例として七月五日には本艦乗組攻撃機隊長平林少佐は豊后水道に於ける訓練中墜落殉職され、七月十日伊勢灣入泊の際海軍が行はれました。同少佐は長野縣諏訪郡出身、上海の空中戦に参加した、末だ日本に數少い空中戦實験勇士の一人でした。これは航空戦隊に於ける飛行事故の一例で他にこれに類する例は澤山あります。

次に第一期行動解散前五月十二日第三回基本演習の際の事故に付いて同日私の日記を繰つて左に掲げて御紹介致します。

(これは私共は信號員としていつも艦橋に勤務し、艦又は隊の最高幹部に接して居る爲自然か、る立入つた事迄知る事が出来るのです、實際船内にては機關兵、主計兵は勿論其他の者大部分が今船は何處を航海してゐるのかの作業をやつて居るのか、演習がどんな具合だか等云ふ事はま

るで無關心に只自分の配置に付いて居る丈なんです。)五月十二日 定時起床(五時)いよいよ今日は第一行動の最後の訓練、第三回基本演習だこれさへ終れば直ちに其場から解散して、母港へ歸港、後は休暇云ふ事になつてゐる。皆待ちこがれた今日だ、乙軍部隊(四戰隊一少隊一戰隊二少隊六戰隊、二水戰二潛戰及一航戰二少隊)は早くも昨夜の内に出勤した、演習開始は午後一時だ。

乙軍は最早反轉して甲軍に向つて進撃して來るのだ、午前十一時、甲軍各隊も第一、第二突撃隊なる七戰隊一水戰を先頭に基地佐伯灣を出動、潜水隊は前方に在つて索敵配備に付いてゐる、乙軍主力部隊上空は天候悪しく、甲軍飛行機(本艦)のみ獨りほし、機に活躍する、先づ第一に敵の飛コウ母艦電護の甲板上に待機中の攻撃機六機を見事にやつ、けてゆう〜と引揚げて來た。

前コウ部隊なる各潜水艦からは盛んに敵主力部隊の位置を無電で報告して來る。併し敵もさる者船上機の不成功を水上機(艦載)にて補ひ敵の航空特務艦「神威」からは盛んに精英なる九〇式水上偵察機が放たれる。

ついに其二機は大膽にも我主力の線上空を突破して母艦赤城の上空に來たり、多大なる被害を與えて引揚げた、やがて夕色せまれば潜水艦は甲乙軍共に中止となり飛コウ機は兩軍共に濃霧にさへざられ飛コウ不能の状態。

こふなつて來るさ小さくて早水らい戰隊の一人天下だ。母艦赤城は敵のらい撃をさぐる爲主力より南方遠く避難した。

午後八時半、聯分カン隊長官

旗オン金剛より演習終結の電來たる、各隊探照灯を照射し始めた、續いて旗オンからは各隊(艦隊)の如くコウ動せよこの令あり、豫定の如く母港に歸る事だ、こふなつて來るさ原速力(十二節)がもごかしい。

十時半頃に至り突然金剛より「各隊は現位置に停止せよ」の電あり、各隊停止、何事かあらんここの令を待つ、聞く所によれば神威の水上機五機高雄、霧島、が各一機宛此濃霧の中にゆき方不明で歸つて來なんだ相だ。

やがて旗オンより同飛コウ機の搜索配備が定められた、横鎮カン船は司令長官自ら呉鎮は六戰隊司令が、佐鎮は一戰隊司令が各々統率のこに各隊探照灯にて照射搜索を開始された。以上

追伸
 天候變調の折柄皆々様御自愛專一の程を、先は亂筆拙文にて御禮旁々御報告まで

聯合艦隊第一航空戦隊
 赤城信號員
 下平武一 拜

昭和九年八月二十日
 丘の村皆々様へ

養蠶實行組合長にお願ひ

下平 忠一

申上る迄もなく養蠶家は現に死線に到來致し居る時何卒系統をたぐり以て此の死線を越へしめる様御努力をお願い申す次第である、もこより養蠶實コウ組合を私法人として國に多く力ある団体になしたるは此の場合の要になしたるは言を俟たず今秋蠶上りより明春蠶收購迄に於て努力及び其他收支不足を生ずる如何を組合長に御調査を願ひ又組合員も

専心生活の爲に盡力し不足額を報告し以て右不足額を村は村債縣は縣債國は國債等何れにしてか此難局脱策を講せられん事を望む、私は先般來聯合會最高職員に文書及口頭を以て陳情何れも賛意を表せられ居る次第、尙當村は多收を以て日本隨一を誇る村なる故率先して然る可く善處せられん事を賢明なる實コウ組合長諸兄にお願ひ奮起を望む次第である。

秋の收穫も近づき、夏以來準備中の今秋のう藝品評會も次第に近づきつゝ、あるが、是の詳細は來月號時報に掲載されるが、出品物を豊富に今から御用意願ひます。

◆キレイな印刷
 ◆勉強 奉仕

科駄村丘龍
 所刷印社共龍

純良種
 養豚山羊の種付
 コブタの分讓
 駄科 小島 兵次

祝 愁 用
 和菓子 洋菓子
 季節 向 折箱 細工物
 時 又 藤屋で
 電話一七番

秋のお仕度は
 吉田屋で
 新型 新柄の各種 シヤツ、ズボン類豊富
 洋服 學生服、ワイシヤツ、メリヤス類
 足袋 各種大特賣
 兎に角品物を見に御遊びにお出掛け下さい
 時 又 吉田屋胖物店

篤農家視察

(二頁より續く)

桑原彌吉氏(四十六才)

(七月三十日午前七時訪問) 岐阜縣忠節郡野田村字領家

一、土地

田八反四畝(二毛作田所有) 畑二反九畝二十五歩

二、養蠶

養蠶 二三五 秋蠶一五五

三、養畜

役用馬一頭 鶏六〇羽 山羊一頭

四、のう産加工

葡萄酒二斗其の他自家用薬 細工 竹細工

五、家族並に従業者

家族四人 内従業者二人 現に農林省指定經營改善指導

農家に於て縣下に於ける集約

小經營の範疇となつてゐます。

私達が早朝訪問した熱心な態

度に心から迎へられて心良く

座敷に案内された事は何より

嬉しくありました。住宅は小

さいが理想的に採光通風其他

總べてに考案された建築にて

農場建物は別になつてゐます

「私達が農村教育にたつたは

つてゐる關係から養蠶に行詰

れる農村の子弟を如何に指導

すべきかといふ點についてお

話をしていた。きたいた」を申

込む。色々問題について次

のやうに話して下さいました

長野縣の行詰り第一に耕地

面積の少い事です。全國の平

均耕地面積より四反歩少い事

になります。山林原野畑が多

いことから農業組織が養蠶に

傾いてゐる。近年蠶糸業の不

振に伴つて大なる打撃を受

け負債の多い事である。有名にな

つてしまひました。農家經濟の

買食生活より見る時に全國平

均生活費の六〇%が自給自

足で四〇%を買入れる割合で

あるのに反し、長野縣は三〇

%自給自足で七〇%を買入れ

てゐる割合です。一例をあげ

る。長野縣中に町村が多いが

米を輸入しない村が六八し

ばいけなさい。佛壇佛具を一掃 又馬一頭を與へられたさうで

玉ねぎ裏作に六三〇貫 林信雄氏の 水田經營

出ました。 農家經濟について次のやうに 語られました。農家は多くの

一、經營費を切り下げるこゝ です。決して百姓の生活にも

れました。葡萄酒にしても一 貫匁で一升二合位出来ること

が土産物は先方の重寶なもの を持つてゆく事が大切だと

木下三四郎氏の 稲と小麦栽培實績